

令和五年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 定時制の課程

Ⅱ 国 語

注 意 事 項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は **問四** までであり、1ページから13ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の○の中を塗りつぶしなさい。
- 5 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の a ～ d の各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|------------|-----------|---|-------|---|------|---|-------|
| a | 探究心が旺盛だ。 | (1) おうせい | 2 | はんじょう | 3 | かんせい | 4 | にちじょう |
| b | 匿名で応募する。 | (1) じゃくめい | 2 | かめい | 3 | とくめい | 4 | だimei |
| c | 情景が脳裏に浮かぶ。 | (1) せんめい | 2 | のうてん | 3 | きおく | 4 | のうり |
| d | 日程を手帳に控える。 | (1) ひか | 2 | そな | 3 | むか | 4 | かな |

(イ) 次の a ～ d の各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | |
|---|------------------|---|-----------------|---|------------------|
| a | 友人たちとカイスイヨクを楽しむ。 | 1 | 作物をヒヨクな土地で育てる。 | 2 | 風呂場のヨクソウをきれいにする。 |
| b | 陶芸家のコウボウを訪ねる。 | 3 | 涼しくなるとシヨクヨクが増す。 | 4 | 宇宙ごみの発生をヨクシする。 |
| c | 障害物をテッキヨする。 | 1 | 生物のサイボウを研究する。 | 2 | 長年のシンボウが実を結ぶ。 |
| d | 作品の制作に時間をツイやす。 | 3 | 難しい仕事にアイボウと挑む。 | 4 | 適切な温度にレイボウを設定する。 |

(ウ) 次の各文のうち、敬語の使い方が適切でないものを一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | |
|---|-------------------------|---|----------------|
| 1 | 生徒の入選作品を、先生がご覧になった。 | 2 | 電化製品の機能をヒカクする。 |
| 2 | 生徒が書いた作文を、先生がお読みになった。 | 4 | 手紙で相手のアンピを氣遣う。 |
| 3 | 出された和菓子を、先生が召し上がった。 | | |
| 4 | 生徒が実習で作ったみそ汁を、先生がいただいた。 | | |

(エ) 次の文章中の□に入れることわざとして最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

文化祭でのクラスの出し物について話し合ったが意見がいつこうにまとまらず、様子を見守っていた学級委員長の決断によって決まった。まさに□だと思った。

- | | | | |
|---|--------|---|-------|
| 1 | 閑古鳥が鳴く | 2 | 鶴の一声 |
| 3 | 目白押し | 4 | すずめの涙 |

- (オ) 次の例文中の——線をつけた「から」と同じ意味で用いられている「から」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 放課後になったら、すぐに学校から帰る。

- 1 都心から近い山に出かける。
- 2 雨風が強いから窓を閉める。
- 3 石油から化学製品をつくる。
- 4 わからないから質問をする。

- (カ) 次の俳句を説明したものととして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

日野 草城ひの ささじょう

- 1 様々な植物の種を握りしめたところ、自身の生命力が体の内部からわき上がってくるように感じるとき作者の心の動きを、「ものの種」という具体的な語を用いることによって明確に描いている。
- 2 植物の種を手にとって握りしめてみたところ、種に宿っている命が手の中でひしめいているかのように感じたときの作者の感動を、「種」だけを漢字で表記することによって印象的に描いている。
- 3 干からびた植物の種を握ったところ、種と種がひしめき合いながら活力を取り戻していく様子を視覚でとらえた作者の姿を、「にぎればいのち」と語順を工夫することによって効果的に描いている。
- 4 両手いっぱい植物の種を握ったところ、種と種とがこすれ合う音からそれぞれの種に宿る命を実感したときの作者の驚きを、「いのちひしめける」と言い切ることによって誇張して描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学校六年生の「朝田天（あさだてん）（おれ）」と五年生で弟の「陽（はる）」、三年生で妹の「光（ひかり）」は、三人兄妹である。「天」は、「おばあちゃん」の料理の味を再現したいと思い、運動会で食べるお弁当作りに向けて練習を重ねていた。運動会当日、「天」たち兄妹が、グラウンドで他の子どもたちとともにお弁当を食べていると、「お父さん」が到着した。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(注) (落合^{おちあい} 由佳^{ゆか}「天の台所」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) デッドヒート^{デッドヒート}⇨激しく競い合っている様子。

テイクオーバーゾーン^{テイクオーバーゾーン}⇨リレー競技の際に、バトンの受け渡しを行う区域。

ヒグテイナー^{ヒグテイナー}⇨「天」の担任の先生。

ハウリング^{ハウリング}⇨マイクを用いてスピーカーから音を出す際に、不快な音が出ている状態。

サムズアップ^{サムズアップ}⇨親指を立てる行為。

(ア) —線1「こっそり渡す。」とあるが、そのときの「天」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 お弁当を食べ進めようと思わない「お父さん」をもどかしく思い、「おばあちゃん」の味を「お父さん」には思い出してほしいため、思い入れのあるだし巻き卵の存在に気づかせようとしている。

2 お弁当をあまり食べていない「お父さん」に気づき、「おばあちゃん」の味を「お父さん」に味わってもらうため、取り分けておいただし巻き卵を周りに気づかれないように差し出している。

3 「お父さん」が食べ残してしまったお弁当を見て不満に思い、「おばあちゃん」の味が再現できていることを「お父さん」に認めさせるため、自信のあるだし巻き卵を食べさせようとしている。

4 麦茶しか飲んでいない「お父さん」のことは気がかりだが、「おばあちゃん」の味と同じ味であることを「お父さん」に確かめさせるため、特別に用意しただし巻き卵を食べるよう促している。

(イ) —線2「どうりで、光とのバトルが増えるわけだ。」とあるが、そう思ったときの「天」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 自分が作った料理に対して家族が不満を言うのは自分への愛情表現だということがわかり、兄妹げんかが起きてても、心配をすることではないと自分を納得させている。

2 料理の腕がなかなか上達しない自分を家族は応援してくれているということを知り、それぞれのやり方で自分を励ましてくれる、家族の存在をありがたく感じている。

3 自分の作る料理によって家族が元気づけられているということを知り、自分の料理が家族により影響を与えるほど力をもっていることに気づき、うれしくなっている。

4 料理を作る自分ばかりがほめられることで兄妹げんかが起こるということがわかり、幼い兄妹では料理ができない今、妬まれても仕方ないと自分に言い聞かせている。

(ウ) —線3「食べ物だけじゃなくて、その場の空気もおれたちはいっしょに食べているのかもしれない。」とあるが、そのように「天」が思った理由を説明した次の文章中のⅠ・Ⅱに入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1〜4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

料理の腕前を「お父さん」が認めてくれたことで、家族の料理を作る人としてⅠと思えるようになり、運動会のように、これからは料理も家族全員が参加してできるようになりたいという理想を思い描いていた。そんな中で、「お父さん」がおいしそうにお弁当を食べている様子に刺激されて自分も食べたところ、今までに味わった料理とはⅡのように感じたから。

- | | | | | |
|---|---|---------------|----|-----------------|
| 1 | I | 他の子どもよりも優れている | II | 一致しない後味が口の中に残る |
| 2 | I | 飛躍的な成長を遂げている | II | まるでちがった味に変化している |
| 3 | I | 尊敬される立場になっている | II | 似ても似つかない味がしている |
| 4 | I | 中心的な役割をになっている | II | 異なるおいしさが加わっている |

(エ) —線4「足はまだまだ超えさせないよ。」とあるが、そう言ったときの「お父さん」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 料理で「天」が家族を支えているということを運動会のお弁当作りによって実感するとともに、自分も父親として負けてはられないと思い、いいところを見せようとしている。

2 自分の力でお弁当を作り上げるまでに成長した「天」が競走の相手であるために、負けるかもしれないとあせってしまい、年齢的にまだ活発に運動できることを示そうとしている。

3 若い頃のように速く走れるか不安に思ってしまった、父親である自分と足の速さで本気の勝負をしようという闘志を燃やす「天」を動揺させることで、心を落ち着かせようとしている。

4 父親である自分が「天」に対して情けない姿を見せることは絶対にあってはならないと思い、出番が近づいてきた緊張から弱気になっている自分を、奮い立たせようとしている。

(オ) —線5「兄ちゃん走れ！ 光、行け！」とあるが、そうさげんだときの「陽」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 家族リレーにおいて自分が思い描いた理想のレース展開になっていないことに対していらだち、競技に出場している「天」と「光」をもつとがんばらせようと声を荒らげている。

2 家族リレーでの家族のピンチを目の前で見たことで放送をしている者としての責任を感じ、「天」と「光」を使ってどうにかして窮地から抜け出させようと使命感に燃えている。

3 家族リレー中のピンチから自分の家族を救い出すために何か行動したくなり、「天」と「光」に指示を出して棄権することなく最後まで走り切らせようと声を張り上げている。

4 家族リレー中に不測の事態に直面しうろたえるだけの自分の家族を見て恥ずかしくなり、事態の打開に向け行動しようとしめない消極的な「天」と「光」に怒りをあらわにしている。

(カ) —線6「フォロートしたのはわたしなんだから。」とあるが、ここでの「光」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 放送席からの「陽」の指示の意図を理解し、すばやく行動したことによってゴールを果たすことができた家族リレーでの自分の活躍を、家族に対し誇るように堂々とした口調で読む。

2 家族リレーで自分より先にゴールした「天」に注目が集まることを不満に思い、自分の支えがあつてこそその活躍だったということを、観衆に訴えかけるように落ち着いた口調で読む。

3 家族リレーでの想定外の行動を非難した「陽」の発言に我慢ならず、競技の成功には自分の行動が不可欠だったということを、他の家族からの支持を求めるように力強い口調で読む。

4 足の速さに絶対の自信をもっている「天」に対し、家族リレーという大きな舞台で果敢に勝負を挑んだ勇氣のある自分の行動を、観衆に知らしめるようにはっきりとした口調で読む。

(キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 自分の思いをうまく他者に伝えられず落ち込んでいた「天」を、弁当作りを通して元気づけようと家族が奮闘する姿を、様々な料理の描写とともに描いている。

2 父と子が本音で語り合う中で伝え方を理解し、子である「天」が自分の思いを明確に伝えられるまでに成長していく姿を、感情豊かな表現を用いて描いている。

3 失敗を重ねながらも自分の力で問題を解決することで、自立した一人前の人間として父から認められようとする「天」の姿を、複数の場面を通して描いている。

4 運動会での出来事の中で互いを思いやり支え合うことを通して家族のあり方を再認識し、きずなが深まっていく姿を、「天」と家族の会話を中心に描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(工藤 尚悟「私たちのサステイナビリティ」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 一六九のターゲット＝SDGsにおいて、一七の目標を達成するための指標。
サステイナビリティ＝持続可能性。

マクロ視点＝対象を広くとらえる視点。

(ア) 本文中の **A**・**B** に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 A さらに B むしろ 2 A やがて B 逆に

3 A おそらく B 一方で 4 A まるで B つまり

(イ) —線1「このとらえ方は実際の状況とのズレがあります。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 環境に働きかけようとする人間を環境の外側にある存在だと見なすと、人間は第三者的に環境と向き合っているということが出来るが、環境と人間の関係性の実態とはかみ合わないということ。

2 環境に直接働きかけをしている人間が環境における自身の役割を自覚すると、目的を持って環境を管理できるが、第三者的に環境を管理するという本来の目的とはかけ離れてしまうということ。

3 環境からの恩恵を受けて生活を成り立たせている人間は賢い選択をしていると見なすと、環境をうまく利用しているといえるが、第三者的な視点で考えれば環境に依存しているだけだということ。

4 環境としての自然と共存していた人間が次第に個人的な利益を追求するようになると、第三者的に環境と関わる事ができなくなるが、人間が生活を営んでいくこと自体は保障されるということ。

(ウ) —線2「こうした視点の捻れ」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 環境問題の解決に向けて自らの意見を主張しようとするとき、人は主観的な意見を述べているつもりでも、あらゆる分野の専門家の意見を無意識的に取り入れて主張をしまっているということ。

2 環境問題の解決を模索するとき、人は主体と客体を切り分けて客観的事実を認定しようとするが、人が環境の一部であるために主観的な意見を排除しきれないという事態に直面してしまうということ。

3 環境問題の解決方法を提案しようとするとき、人は環境における主体と客体を区別するよりも、客観的事実をとらえるために主観的な意見を排除していくべきだという認識を持っているということ。

4 環境問題の解決を図ろうとするとき、人は事態を解決に導くための対応策を考え出そうとするものの、明確な主語を示すことができないために客観的事実だけを根拠に提案をってしまうということ。

(エ) —線3 「風土は、自然と人間のあいだにあるひとままとりの関係のこと。」とあるが、ここでの「風土」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 地域に住んでいる人々に保持されており、所有物として定義づけられているもの。
- 2 自然を人間の世界と切り分けて整理し、個々の土地ごとに独立して存在するもの。
- 3 人間の一方的な都合で形成され、特定の地域の人々の中で語り継がれていくもの。
- 4 自然と人間の相互的な関係性を土台とし、地域に住む人々で共有されているもの。

(オ) —線4 「風土のサステイナビリティ」とあるが、そのことについて筆者はどのような考えを述べているか。それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 複数の異なる「私たち」が個々の風土の特徴を決定づけているということを理解することによって、自然による一方的な支配から人間が抜け出すことが可能となる。
- 2 複数の異なる「私たち」という様々な世界観に基づいた考えを風土の中で広めていけば、人間と自然のあいだにある結びつきを強固なものにしていくことができる。

3 複数の異なる「私たち」が風土の中にあるという認識に立つことによつて、人間と自然が互いに関わり合いながら持続していく関係性を構築することが可能となる。

4 複数の異なる「私たち」を風土から見つけ出していくことができれば、自然の脅威にさらされている無防備な状況に対処するための有益な情報を得ることができる。

(カ) —線5 「風土の視点にも限界があります。」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 人間と自然の関わりをひとまとりの関係としてとらえてしまうと、規模が大きい自然に注目が集まってしまうことになり、環境問題における人間の存在感が薄らいでしまうということ。

2 人間と自然の関わり方を歴史の流れから考えてしまうと、自然と人間のひとまとりの関係を過去の事実としてとらえてしまい、自然を視点とした未来の展望を語れなくなるということ。

3 対象の規模が大きいと、人間と自然のあいだにあるひとまとりの関係を認知していくことが難しくなってしまう、環境問題を身近な問題としてとらえられなくなってしまうということ。

4 地球規模にまで対策の範囲を広げようとしてしまうと、自然と人間のあいだにあるひとまとりの関係が崩れてしまい、絶妙に保たれていた相互関係の均衡が失われてしまうということ。

(キ) 本文について説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 環境問題を考える際に、人間と環境を切り分けるのではなく風土のサステイナビリティという視点を加えることで、環境問題に対して人が主体性を持つようになるということについて述べている。

2 医師と患者のやりとりを例に環境問題における人間の立場を明確に示し、問題の広がりや食い止めるための手立ての一つとして、各分野の専門家に任せるといった選択肢の有効性について述べている。

3 環境問題を構造化し、人間と環境をつなげている概念としての風土をサステイナビリティの視点で考えるために、対象を主体と客体に切り分けるという近代科学の基礎的な手法について述べている。

4 現状を人類の危機であるとしてとらえた上で、人間が環境問題を他人事のようにして放置してきたことで起きてしまった地球規模での深刻な問題を、解決していくための唯一の方法について述べている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔物語に、鳥、鵜うにいへるは、「いかに鵜殿うでん、御身おんみは果報なる人かな。水の上に身を浮かめて息いきひながら、何の苦勞もなく、腹の下なる魚を安々と取りアて食しくし給たまふものかな。我らは終日（一日中）飛びあるきても食ひねもすにあふこと少なく、たまたま乾ほしたる魚、または菓子などを見つけても、皆主あるじありて守りきびしければ、（危険をおかすことなく）胸を冷やしてさうさなく取り得ること難かたし。2この故に食つねに足らずして苦し。疲れて羽を息やすめんとして木に止エまれば、また脚の勞あり。御身を学びて水に入りて魚をとらんとすれば、たちまちに水を喰くらふ。あな羨ましの鵜殿や。飽き満ち給ふ食を少し此方こなたへも施し給へかし。（けちな）しはき御心かな。」といふ。

鵜答へていふ、「鳥殿鳥殿、さな思ひ給ひそ。（そのようにお思いなさるな）それより見給ふには水に浮かびて、何の苦もなくて食を得はべると思ひ給ふけれど、水の中にて脚を働かすこと少しも暇なし。その苦勞おほかたのことにあらず。（並大抵の）その上魚も生ある物なれば、なかなか心やすく取り得ること難し。3上より見給ふと、水中の働きとはおほきに相違ありと思ひ給へ。大海広けれども、終日魚にあはずして食なきことあり。あるいは風波はげしきときは、終日（岩のほら穴）巖穴がんけつに食なくて暮らす折もあり。兎角とかく憂うれき世は自由に豊かなることはべらず。なかなか御身に施し与ふべき余計こそはべらね。（けつして）かまへて御身ひとりと思ひ給ふな。」といひしかば、鳥も「かう。」といひて飛び去りぬとかや。

〔鄙都言種ひとことばな〕から。〕

(ア) 線ア～エの中から、他と主語が異なっているものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ア 2 イ 3 ウ 4 エ

(イ) 線1「御身は果報なる人かな。」とあるが、「鳥」がそのように言った理由を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 たくさん食べて体が重いはずなのに、「鵜」が水に浮かんでいられることが不思議だったから。
- 2 水面に浮かんで休んでいるのに、「鵜」が楽に食べ物を入力していることが羨ましかったから。
- 3 自分は空腹に耐えられないが、「鵜」があまり食べなくても平気だと知って意外に思ったから。
- 4 自分は自らの力で食べ物を得るが、「鵜」が食べ物を分けてもらっていると聞いて妬んだから。

(ウ) —線2「この故に食つねに足らずして苦し。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 一日中食べ物を探しても見つけれないことが多く、干し魚や木の実を見つけられたとしてもすぐに持ち主がいるため、食べ物を確保することに困ってしまっているということ。
 - 2 一日中飛び回って移動しているために、夕方になると干し魚や木の実などは他の動物たちに取られてしまっており、自分の食べ物が全く残っていないことを残念に思うということ。
 - 3 朝から晩まで飛び回って食べ物を探しても空からでは見つけづらく、干し魚や木の実を見つけることができたとしても、手に入れられる数が限られてしまうのがつらいということ。
 - 4 朝から晩まで空を移動していて隠れようがないために、命の危険にさらされながら食べ物を探すことになり、干し魚や木の実の正確な位置を把握することが困難であるということ。
- (エ) —線3「上より見給ふと、水中の働きとはおほきに相違あり」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「鵜」は、水上の様々な食べ物を食べているように見えるかもしれないが、実際には水中の魚しか食べられる物がなく、食べ物が限られている点では恵まれてはいないということ。
- 2 「鵜」は、水上で苦勞して食べ物を得ているように見えるが、水中で足を動かすことは実際には楽な動作であり、動きがすばやい魚を簡単に捕まえることができるということ。
- 3 「鵜」は、水上でゆったりと暮らしているように見えるかもしれないが、実際には水中の危険から絶えず自身の身を守り続けており、水上にいても油断してはならないということ。
- 4 「鵜」は、水上に浮かんでいるだけで楽に食べ物を得ているように見えるが、実際には水中で絶えず足を動かしており、生きている魚を捕まえることに苦勞をしているということ。

(オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「鳥」は、「鵜」が食べ物を分けてくれないことに怒りをぶつけたが、「鵜」が自分の食べ物だけでも精一杯だったと知り、自分本位な主張をした自分を戒めた。
- 2 「鳥」は、「鵜」が魚に気を遣い過ぎていると批判したが、鳥である「鵜」が水中の生物と共存するために仕方がないと聞き、考えが足りなかったと反省した。
- 3 「鳥」は、「鵜」が苦勞せずに食べ物を得ていると思っていたが、「鵜」の話を聞いて一方的な見方をしてしまったことに気づき、その場からいなくなった。
- 4 「鳥」は、「鵜」が食べ物がなく困っていると思っていたが、「鵜」が食べ物をほら穴に隠しもっているという話を聞き、他をあざむいてはならないと批判した。

(問題は、これで終わりです。)

